



天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町2-9-1 奈良文化財研究所内

2024年7月発行

91号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

第23回通常総会を開催

5月25日NPO平城宮跡会員44名（委任状53）が平城宮跡小講堂で第23回通常総会を開催しました。

活動の基本方針

当会は平城宮跡の歴史的・文化的価値の維持・保全に寄与することを事業の方向性として活動して参ります。

その上で6年前に開園した「平城宮跡歴史公園」



の利活用に積極的に対応するため、「歴史公園ガイド」や「平城京歴史講座」に取り組み、「朱雀門ひろば」を起点に奈良時代を今に感じる諸活動を引き続き進めます。

特に、平城宮跡における最初の本簡が発見された日を「本簡の日」と提唱し、これを啓発する活動と、近年、発見された「かりうち」の普及という文化・ガイド事業活動に取り組みます。

平城宮跡歴史文化講座については、18年間開催して参りました。本年5月には50回目を迎えますので、記念講座として催します。また、「宮跡を訪れる人々に最適空間を提供する」ため、環境保全活動に、なお一層、積極的に推進して参ります。さらに、「天平のひろば」の紙面の充実を図ります。

奈良文化財研究所、平城宮跡管理センターはじめ、関連団体と協働して事業を推進し、平城宮跡の保存と利活用に努めます。そして、これまで23年間の活動成果を踏まえ、ポストコロナを見通し、新たな時代に対応するNPO活動に取り組んで参ります。

今年度の主な事業計画

（1）NPO平城宮跡会員の増加と会の経営基盤の強化に努めます。

NPO会員の新規加入の促進に努めるとともに、事業運営の効率化を推進します。

（2）宮跡を最適空間に創出するため、環境保全活動に一層、取り組みます。

クリーン活動、緑の保全活動、見守り活動に加えて、桜見守り活動にも取り組みます。

（3）組織の充実と人材の確保に努めます。
NPO関連事業の拡大・多様化に積極的に取り組むための組織と人づくりに努めます。

（4）関連団体との協働事業の推進を図ります。
奈良文化財研究所を始め、平城宮跡管理センターなどと協働して、教育活動やガイド、文化事業に取り組み、平城宮跡の歴史的・文化的価値の情報発信に努めます。

（5）広報活動を充実強化します。
「天平のひろば」の紙面を充実し、ホームページを拡充して、積極的に情報発信します。

（6）期待されるNPO活動の在り方について、検討します。

NPO平城宮跡23年の活動成果を踏まえ、奈良文化財研究所の指導を得て検討します。（編集部）

第22回平城宮跡クリーン大会

4月20日参加者は広い平城宮跡のゴミ拾いのあと、ゴミが少ないのは市民のモラルと高く評価。いい汗をかき、話ができて、ゴミ拾いが楽しく、天気も良く清々しくて気持ちが晴れたと好評でした。

次回クリーン大会は、500名を超える参加で取り組みたいと思います。

【6面に関連記事】



遺構展示館駐車場の集合写真

（編集部）

「律令を読む」

—律令という史料—

寺崎 保広

(奈良大学名誉教授)



5月25日第50回平城宮跡歴史文化講座が平城宮跡資料館講堂で159名を前に「律令を読む—律令という史料—」と題し講演。

飛鳥・奈良時代は「律令国家」と呼ばれる。645年の大化の改新以後新しい国家を作ろうと、律令（「律」は現在の刑法、「令」は憲法にあたる）を唐から導入し、四度にわたり法典（律令）を編纂した。その編纂・残存状況は次の通り。

	編纂されたか		条文の残存		凡例
	律	令	律	令	
近江令	×	?	×	×	◎—編纂され、条文が残る
浄御原律令	?	◎	×	×	?—編纂されたか不明
大宝律令	◎	◎	×	▲	×—編纂されてない、残存条文なし
養老律令	◎	◎	▲	◎	▲—原文はないが令義解、令集解など注釈書に残っている

唐の律は12の篇目（章立て）があり、合計502の条文より成る。「養老律」は、法典の1/3程度が残るのみだが、唐の律に準じているとみられ、篇目数、条数は一致しており、ここから他の条文も推定できる。最初の「名例律」をみると20種類の罰則を定め、以下の篇目で罪名・量刑を規定している。ただ日本版にする際には量刑は軽く設定することもあるなど、実情に合わせ工夫をしている。

令の条文は、「大宝令」、「養老令」とも書物では残っておらず、「令義解（833年成立）」「令集解（860年頃成立）」という別の注釈書に引用される形で残っている。前者は養老令についての政府公式見解、後者は公式以外の見解を集めたもの。なお、令集解の注の中には養老律令の施行以前の時期の条文（大宝令）を引用したのがあり、条文の一部も推定でき、大宝令の存在や養老令との違いが解る場合もある。養老令の篇目は32あり、条文の合計は、1000に近い。内容は「職員令」では、役所の名称、職掌、定員などが、「考課令」では人事考課の時期、方法、評価の等級などが事細かく規定されている。さらに上の篇目に限らず、現実の行政では令だけでは間にあわず、実際に即した命令が中央から「太政官符」として出る。

平安期に至るとこれが膨大な数に上り、有効なものだけを残して整理した「弘仁格式」が成立（803年頃、格は現行法令集、式は役所毎のマニュアル）。やがて元の律令は有名無実となっていっていった。奈良時代は、作ったからには「律令を生真面目に実行しようと努力していた頃の国家」で、日本が「法治国家」だといえるのは、この時代と明治以降だけなのではないだろうか。（編集部）

平城宮跡歴史文化講座(次回)

10月12日渡辺晃宏（奈良大学教授）

「律令を読む—名例律と律令官人の犯罪—」

古代瓦の拓本づくり、盤上ゲームかりうち

5月3日～5日、「平城京天平行列の会」が朱雀門ひろばで天平への誘いを行うなか、いざない館ではNP0平城宮跡13名が「古代瓦の拓本づくり：61名」と「盤上ゲームかりうち：230名」の体験を実施しました。いずれも奈文研が発掘したもので「拓本づくり」は古代瓦の文様を拓本にして（一枚300円）、「かりうち」は奈良時代に遊ばれたすごろくに似たボードゲームで（無料）、いずれも好評でした。



古代のボードゲーム「かりうち」

(文化・ガイド部会)

新役員のご挨拶



理事に選任いただきました藤永泰雄です。

大極門が完成し東楼の復原工事も順調に進み来年にも完成の予定です。先人が残してくれた平城宮跡がより魅力的になろうとしています。

ご来場された皆さんが奈良時代を楽しく感じる学びの場として、国営平城宮跡歴史公園を満喫していただけるよう頑張りたいと思っています。

(藤永泰雄)

第 50 回平城宮跡歴史文化記念講座

鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長から、この講座は 50 回目に寄せて開催した旨、説明の後、本中眞奈良文化財研究所長から「NPO の方々の日頃の幅広い活動、支援に感謝し、第 50 回目の歴史文化講座が開催されることをお祝いしたい、奈文研では本年 4 月に現況と課題を整理し、調査・研究の成果をスムーズに届けられるよう組織改編を実施し、さらに、古都奈良の持つ有形無形の価値を知って、多くの市民と共有していきたい」との挨拶をいただきました。



鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長の説明



本中眞 奈良文化財研究所長

また、「天平のひろば」合本版（令和 3 年 11 月発行）に講演要旨を掲載して以降、42 回目以後を一括に纏め、併せて、第 1 回から 50 回までの実施記録一覧を同時に発刊し配布しました。

なお、本ホームページの会員用ホルダーに転載していますので皆さまご活用願います。（編集部）

交流会

第 23 回通常総会、第 50 回平城宮跡歴史化講座に続き、本中眞奈良文化財研究所長はじめ、柳沢秋介飛鳥歴史公園事務所所長、中井健二平城宮跡管理センター長、鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長、関係者、および同会会員 41 名が一堂に会し、NPO 平城宮跡の講演会をはじめ、活動が永年継続されたことへの謝意が伝えられ、設立当初から活動してきた方々から、感謝の念に堪えられない旨、報告があり、交流会は和やかなうちに終わりました。



田辺征夫 元興寺文化財研究所長



本中眞 奈良文化財研究所長



柳沢秋介 飛鳥歴史公園事務所所長



中井健二 平城宮跡管理センター長



鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長



平城宮跡資料館小講堂 交流会

その他の来賓の皆さま：寺崎保広（奈良大学）、加藤真二（奈文研）、清野孝之（奈文研）、桑原隆佳（奈文研）、華表洋二（平城宮跡管理センター）、小田倫之（平城宮跡管理センター）

（順不同、敬称略）（編集部）

好評 平城京 歴史講座

柴田将幹さん（田原本町教育委員会事務局文化財保存課係長）が 4 月 13 日 104 名を前に「弥生の環濠集落遺跡 唐古・鍵遺跡」と題し、講演。



唐古・鍵遺跡は、弥生時代の大規模集落であり、弥生式土器が初めて発見された所である。

寺川と初瀬川に挟まれた立地条件があり、奈良盆地で初めて稲作が始められた。弥生時代前期に環濠を掘り、中期には大型建物が造られ、吉備地方など他所から搬入された土器や、中にヒスイ製の勾玉が入った褐鉄鉾容器も出土した。ヒスイは糸魚川市周辺で採れたから、環濠が運搬機能を果たしたことがうかがえる。また、大陸の文化や技術が伝えられて青銅器の生産もなされ、銅鐸や武器などを製作していたことが判明。楼閣などを線画で描いた絵画土器が多く出土しているのもこの遺跡の特徴である。

しかし中期後半から後期頃になると気候変動による寒冷化や多雨化で、川が氾濫して米ができなくなったり、環濠が埋没してその復興に腐心したりと川の制御が難しくなって、古墳時代前期には村はほぼ消滅したようだ。このように水によって栄え、水によって衰えた遺跡であった。（編集部）

廣岡孝信さん（橿原考古学研究所 主任研究員）が 5 月 11 日 136 名を前に「太安萬侶の邸宅と奈良時代のヒツジ」と題し講演。



古事記編集者の「太安萬侶」は墓の発見までは実在の人物か疑われていた。墓誌に記載された左京四条四坊から太安萬侶邸跡を推定する。平城京遷都時の太安萬侶は五位の貴族であり四

条四坊の 16 分の 1 の水捌けの良い宅地が班給されたはずである。左京四条四坊九坪から、「硯」と推定される精密なヒツジ形の土製品が発掘された。

奈良時代前期で羊の頭をした遺物の発見は、三重県斎宮跡と三河国府跡がある。どちらも最高位が五位の役人であり貴重品であることから、平城京跡で発見され硯も太安萬侶の物かもしれない。

九坪は発掘された溝から 4 分割されていたと推定される。多神社が所有する多（太）氏の系図から太安萬侶は、品治の長男で 3 人の位の低い弟がいる。氏長の太安萬侶が弟を宅地内に住まわせたと考えられる。左京四条四坊九坪を太安萬侶邸跡とするために、高級文房具や名前の記載された木簡の発掘が期待される。

奈良時代は、正倉院の屏風などからヒツジ文化が定着していたことが窺える。（編集部）

江浦 洋さん（元興寺文化財研究所技師）が 6 月 8 日 141 名を前に「平城京北辺坊をめぐる新発見」と題し講演。



平城京右京北辺三坊と推定される区画の発掘調査で、調査区の北東隅から築地塀の痕跡と東西方向の溝が見つかった。一条北大路北側の「平城京北辺坊」

の場所の確定をめぐるのは、100 年に及ぶ論争が続いている。

今回築地塀に用いられていた瓦が、溝からまともに出土した中に「修理司」という文字が刻まれた瓦があった。丸瓦の凸面に縦に刻まれた三文字目の横線は「司」ではないかとされ、「修理司」と呼ばれる職掌とその施設の存在が考えられた。この修理司は、西大寺・西隆寺の造営期間と重なっていることから両寺造営に関連して設けられたのではないかと推定される。鎌倉時代の西大寺と秋篠寺の寺領争いで提出された古絵図には「十五所明神」と隣に「修理所」の記載があり、調査地の西に「十五所神社」が現存することからその関連性が指摘される。今回見つかった条坊区画と京北条里と北辺坊の関係、さらには調査地北側での東西方向における明確な条坊区画の発見によって北辺坊の確定が待たれる。（編集部）

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

- ・ 7 月 13 日：柴原聡一郎（奈良市埋蔵文化財調査センター）「富雄丸山古墳と佐紀の王陵」
- ・ 8 月 10 日：阪口由佳（奈良県立万葉文化館 主任研究員）『古事記』における風と雲
- ・ 9 月 14 日：福山博章（京都府埋蔵文化財調査研究センター主任）「井手寺と古代の都」

あちこち見て歩き ⑨ 芭蕉の大和路 (二)

芭蕉の大和への旅の2回目は貞享二年二月からで、年末年始と伊賀上野で過ごした後、峠を越えて、奈良に入った。この時に

春なれや名もなき山の薄霞

と古来和歌で尊重される香具山や佐保山などを言わずに「名もなき山」と斬新な表現を用いて、待望の春の訪れを喜ぶ心を表した。

この旅では東大寺二月堂の修二会の行を拝して



水取りや氷の僧の沓の音

と厳しい寒さの中を行法僧達が床板を踏み鳴らし、沓音を響かせて行をしている様子を吟じた。二月堂下に現在ある句碑は中七を「籠りの僧」としているが、これは江戸中期の俳人蝶夢編の『芭蕉翁絵詞伝』などによるもので、現在は「氷の僧」ではないかとされている。この時は興福寺でも修二会が催されていて、そのイベントとして薪能が演じられており、それも見物しようと奈良に来たのである。

『野ざらし紀行』の旅を終えて陰暦四月末、深川の芭蕉庵に帰り、2年半の庵住生活の後、貞享四年十月、45才という当時では老境に達した身で『笈の小文』の旅へ出立。その際に

旅人とわが名呼ばれん初しぐれ

と自己の到達した俳境を風雅の旅で実践しようとする句を詠んでいる。

途中三河の国保美に謹慎中の愛弟子杜国を訪ね、年末に故郷伊賀上野に帰省。越年して貞享五年三月半ば、自ら万菊丸(戯号)と名のつた杜国を伴って吉野に赴いたのが3回目の大和への旅である。杜国との旅の喜びと浮き立つ心を笠の内側に

乾坤無住同行二人 吉野にて桜見せうぞ檜笠

と書きつけ、また杜国も「吉野にて我も見せうぞ檜笠」と唱和して、芭蕉に同行する喜びを表している。途中二人は琴引峠を越えて、長谷寺に参詣。

春の夜や籠り人ゆかし堂の隅

と平安時代以来、願いを叶えたい人が堂に夜籠って観音に祈ったことをふまえて、「籠り人」に心ひかれて慕わしく思う気持ちを詠んでいる。

(河野良子)

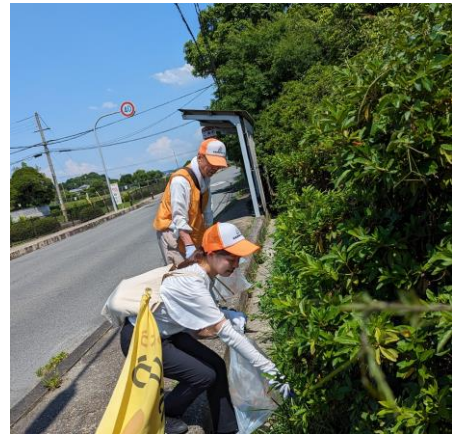
平城宮跡をきれいにしたい！

環境保全部会の活動

平城宮跡周辺では「ゴミを捨てない捨てさせない！」をフレーズに環境の美化運動とパトロール(平城宮跡見守り隊)クリーン活動をNPO 平城宮跡発足とともに定期的に行っています。

遷都1300年祭後は、ゴミの量が大幅に減少し、皆さまのモラルのおかげと感謝しています。

<http://www.heijyonet.nara.jp/kankyo-schedule2024.pdf>



一条通のバス停前はポイ捨てが多い

(環境保全部会)

緑の保全部会の活動

「緑のボランティア平城宮跡」として20年前から活動しています。

活動は、平城宮跡内の植生の管理で資料館玄関周辺及び中庭の草刈り、梅林の剪定管理、萩の刈り取り、セイタカアワダチ草の除去作業などです。メンバーの21名の作業日は、毎月第一、二、三火曜日の9時～11時です。猛暑の7月、8月と厳寒の2月は休止し、「熱中症警戒アラート指数31」を超えるときは休止するなどの活動です。

<http://www.heijyonet.nara.jp/green-volunteer24.pdf>

また、桜見守り隊を結成し、平城宮跡の桜の木を害虫から守るため、10名体制4班が毎週1回みまもり活動を続けています。

<http://www.heijyonet.nara.jp/sakura-s.pdf>

<http://www.heijyonet.nara.jp/sakura.pdf>

(緑の保全部会)



1977年埼玉県加須市生まれ。2001年千葉大学工学部卒、2003年東京大学大学院建築学専攻修士修了、同年4月奈文研に採用され、平城地区、藤原地区の発掘調査に携わり建造物研究室長を

経て2024年4月改組により現在に至っています。

子どもの頃から、大林さんは絵を描くことが好きで、今は建築学、建築史・意匠が専門で寺院や神社などの宗教建築全般に注目し、宗教的な思想を背景とした造営計画、当時の社会背景などに関心があります。大林さんは、奈文研紀要、奈文研ニュース、なぶんけんブログなどで、研究成果の情報を発信しています。

古建築では、薬師寺をはじめ南都諸大寺、藤原宮大極殿院の調査などに貢献しています。なかでも、第一次大極殿正殿の大量の瓦の復原は「唐」長安城や洛陽城と同様に、「大極殿の黒い瓦」に近い色となるよう何度か濃度を変え調整して、大極殿に葺く黒い瓦の再現を研究しています。「いぶしとばし」を行い、表面に瓦本体と異なる鉄分の高い粘土をいくつか塗布するなどで、しっとりとした黒い瓦を焼成10万枚以上の瓦が完成。（文化庁月報2006.7）

さらに、日本最古の木造建造物「法隆寺金堂」の「昭和大修理で取り外された古材の調査研究」にも貢献しています。

「古都奈良の文化財」に関するニュースは日常的に成果がアップされ他都市に類を見ません。

また、京都の寺社建築では南禅寺など禅宗寺院が好きです。

文化財の宝庫河合町から、文化財の保存・活用に奔走する二条町（奈文研）に赴き、NPO平城宮跡の講演も機会あれば登壇しますと話して頂きました。

最後に、皆さまの平城宮跡での活躍も聞いています。ご高齢と思いますので“熱中症”に気を付けて、と優しく声をかけていただきました。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

4月20日平城宮跡クリーン大会に400人が参加

奈文研、平城宮跡歴史公園、同管理センター、GPMO、NPO平城宮跡の共催、奈良市シルバー人材センター、奈良警察あつぷりけ戦隊、奈良市民走ろう会、パナソニック松愛会奈良東支部、航空自衛隊幹部候補生学校および、市民の皆さまの協力で、これまでになく400名の参加がありました。奈文研本中眞所長の代表挨拶、NPO平城宮跡鈴木浩理事長の説明で全域を4班に分かれ賑やかにスタート、平城宮跡のゴミ（軽トラ一杯分50^{kg}）を拾いました。

参加者からはゴミはなかったけど、世界文化遺産を歩けて清々しい気持ちになり、また参加したいと多くの感謝の声をいただきました。（環境保全部会）



朱雀門ひろばに集合した参加者の皆さま

新規会員の紹介/募集

＊＊新規会員の紹介＊＊（7月1日現在）

岡本秀夫さん、小林弘侑さん、小松令和さん、柴田茂さん、辻本良信さん、戸張典子さん、堀江敬子さん、正木康友さん、松野聡子さん、安澤久浩さん、山中一真さん、11名が入会しました。

＊＊新規会員の募集＊＊

＜活動の支援/入会のお申し込み＞

❖個人が支援/活動 年会費 3,000円

❖法人が支援/活動 年会費 10,000円

◆お申込みなど ☎ 0742-34-7713

編集後記

6月30日は夏越の祓。半年間に身についた穢れや罪を払います。

7月にも各社寺で茅の輪くぐりが行われますので、これからの厳しい夏を無事に過ごせるよう、祈りながら茅の輪をくぐりましょう。（Y. S）